

平成23年度 森プロ事業実績：可茂南部100年の森づくりプロジェクト（都市近郊林業）

（平成24年3月末現在）

	H20～22年度		H23年度				5カ年	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	179.41	221	53.53	106	198%		283	
作業道(m)	13,800	13,424	5,800	6,636	114%	作業路含む	25,000	
間伐等	面積(ha)	138.47	75.38	43.08	57	132%	利用+切捨	221
	材積(m3)	3,349	2,152	1,000	1,302	130%		5,246
備考	団地外実績：利用間伐60.97ha 搬出材積1,730m ³ 作業路開設6,243m							

H23年度利用間伐等における所有者への還元額（補助金含む）

0 円/m³

施業集約化の状況

- ・平成22年4月30日に第2団地として中切地区の説明会を実施した森林所有者とほとんど同じため、継続して施業集約化を実施した。

施業プランの活用状況

- ・未活用で作成中

施業プランナーの養成状況

- ・施業プランナー1名

作業道の状況

- ・木材運搬を目的とする基幹作業道(W=3.5m,L=2,016m)と利用間伐を目的とした作業道と緊急管理路(W=3.0m,L=4,620m)を開設した。基幹作業道は主に尾根部分を中心に開設している。
- ・降雨時に作業道の点検を行い、雨水による侵食を防ぐため、集水域や水の出る場所に注意を置き、水切りをこまめに作成している。
- ・地形や土質など地域の自然条件に合った作業道を実現するため、作業道研修会に積極的に参加している。



図-1 管内森林組合による合同研修会



図-2 国有林作業道研修会



図-3 尾根部を中心とした作業道開設（中切2号線）

作業システムの状況

- ・基本システムとしてグラップル(集材)→チェンソー(玉切造材)→グラップル(積込)→トラックの作業システムで実施、利用間伐を目的とした緊急管理路ではグラップル(集材)→チェンソー(玉切造材)→フォワーダ「リース」(運搬)→トラック(積込・運搬)で行っている。高性能林業機械導入支援事業でプロセッサとフォワーダを活用した。



図-4 プロセッサによる造材



図-5 フォワーダによる運搬

その他

- ・組合だよりを通じて、全組合員に定期的に事業の報告をしている。
- ・緊急雇用創出事業を活用し、境界調査と森林現況調査を実施した。



図-6 境界調査



図-7 森林現況調査

森プロの成果

- ・団地外作業道開設と森林整備を積極的に実施した。
- ・人工林と天然林という区分でなく、流域的な森林管理の提案を実施することができた。
- ・モデル団地外にて利用間伐を目的とした作業道の開設ができた。



図-8 スイングヤード研修会



図-9 団地外での作業道開設
(杉洞2号線)



図-10 団地外での利用間伐の実施
(杉洞地区)

今後の課題

- ・素材生産費の実績と計画の素材生産費の乖離を縮減すること
- ・ヒノキ枝虫材を有効に売するための木材市場の動向の注視
- ・森林施業地の施業プランの確立